

今週は、家温差が激しい一週間でした。そのせいか、今日、登校後に発熱してしまい、早退した児童が複数名いました。土日も天気予報等の情報を確認して、衣服の調整をしながら健康管理をお願いします。今日の諸感染は3名、集中している学級・学年もなく校内での感染拡大の兆候は見られません。

特別支援教育特集 その2

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

「障がい」について考えてみましょう

67号では、特別支援教育特集その1として、障がいの程度に応じた学びの場があることをお知らせしました。学びの場とは違いますが、オリンピックとパラリンピック・デフリンピックはそれぞれの障がいに応じた大会があるのと似ているかもしれません。今号では障がいについて考えてみましょう。

「障がい（障害）」を辞書で引くと、「**身体の一部に正常に機能しないところがあること**」（新明解国語辞典）とあります。どんなことでしょうか・・・

- **見る・聞くについて・・・ものを**
見る・聞くことについて考えると、視力が極端に弱く光を感じることもものを見る事ができない、耳が全く聞こえない場合は障がいと捉えます。では、めがね、補聴器等があれば見る・聞く事ができる場合どうでしょうか。特に日本では、めがねやコンタクト、補聴器等がないと生活に支障がある人が私も含めて大勢います。障がいと呼べるのでしょうか？それって、車椅子や杖がないと生活が困難な状況と比べて、どこか違いがあるのでしょうか。
- **運動機能について・・・自分が歩きたいと思っても歩けないほど身体がコントロールできなければ、障がいとされ、電動車椅子等を使ったりします。でも、指先が思ったように動かさない、不器用なところがある場合はどうでしょうか？** 文字を書くとか、図形や絵を描く場合に、自分が思ったようにできる人とできない人がいます。書写がうまく書けない、図工で絵が思ったように描けない場合、障がいとは言いません。「上手」とか「あまり上手じゃない」といった言い方をします。その違いって・・・？
- **脳の働きについて・・・脳の一部分が正常に機能しない場合、たとえば、状況に応じて自分の感情をコントロールする、一つのことに集中して考える、文字や図形を見比べ、違いや位置関係を認識する、相手の気持ちを思いやる、温度を感じる、音声の内容を聞き取る、様々な色を見分けるといったことが他の人よりも上手にできない場合はどうでしょうか？** いつも怒ってばかりいる、すぐに飽きて他のことに注意が

散ってしまう、みんなが寒いと言っているのに一人だけ半袖半ズボンでいる等、身の回りに結構いますよね。そういった人を障がいとは捉えず、「ちょっと人と違う」「苦手」と考えることがほとんどです。障がいとは捉えないのはなぜでしょうか？

◎ **障がいと判断する基準は・・・視力・聴力、運動機能、また脳の働きにしても、社会生活が困難なのか、それとも何らかの助けを借りることで上手に、あるいはなんとか解決できるのかどうか「障がい」と捉えるかどうかの重要な判断要素です。また、どのくらいの数の人が該当するのかや、解決するためにはどのくらいコストがかかるのか、そしてその人を受け入れるかどうかの社会環境も判断要素の一つです。**

例えば、車椅子が必要な人の数が、めがねやコンタクトを使う人くらいに増え、車椅子でどこへでも行ける・どんなことでもできるような社会環境が整った場合はどうでしょう。車椅子の人が、めがねやコンタクトの人と同じように、みんなと一緒に普通に生活できる環境が当たり前になれば、車椅子を使う人を障がいがあると捉える人はいなくなると考えます。

障がいとは、程度の違いがあっても、**誰にでもある「できること・できないこと、得意なこと・苦手なこと」の延長上にある「極端にできない、極端に苦手（困難）なこと」**で、時代や社会状況が変われば、障がいの種類も変わると考えることができます。お互いの違いや特性を認め合い、苦手なこと、できないことを補い合い、得意なことを発揮し合って協働できるようになれば、もっと素敵な社会になるはずですよ。そんな考え方を身につけることをめざすのが特別支援教育の考え方です。

障がいの有無に関わらず、一人一人がのびのびと学べる・生きられる環境を創っていきたいですね。

